

## 子どももボランティアも笑顔で集まれる場所に

一昨年の2月に設立し月1回活動しています。自分が子どもだったらこんなこども食堂があったらいいなという考えを形にしています。ここでは手作りのごはんをボランティアさんと一緒に食べるのが決まり。地元の力を生かした楽しい場所を作りたいと思い今のこども食堂になりました。読み聞かせや歌の時間など、イベントには連携した団体が応援に来てくれます。現在、利用

者は大人と子ども合わせて50人くらい。衛生面は特に注意し、食品の有効活用やごみの減量にも取り組んでいます。

こども食堂は国連が定めるSDGs(※)に大きく当てはまる有意義な活動です。子どもに限らず誰でも来られるみんなの居場所としてこれからもたくさんの笑顔に出会いたいと思います。



※SDGs(持続可能な開発目標):国連が定める2030年までの国際目標で、すべての人が平和と豊かさを楽しむことを目指し「すべての人に健康と福祉を」「人や国の不平等をなくそう」など17の目標を掲げている



食事だけでなく学習支援やイベント、お絵かき、読み聞かせの時間も設けています。



約20~30人のボランティアが協力して準備を行います。



多くの支援で栄養バランスの取れた食事が完成。



食材がどんなルートで提供されたのか、子どもたちにも説明します。

## 試行錯誤しながら 継続することが大切



石原さん(右)と談笑するボランティアスタッフと訪れていた子どもたち

活動を始めて3年がたちます。こうしなければいけないという決まりのない活動だからこそ、試行錯誤しながらやってきました。例えば、一度にあまりにも多くの人数を受け入れるのは限界があると感じて予約制を導入しています。子どもが安心して来られる場所にするために、考えることはたくさんあって大変だけれど、それ以上に元気をもらえるので続けたいと思えるんですね。

今後はこども食堂が昔の寺子屋のように地域に必ずある場所になればいいなと思います。こども食堂は今、全国でさまざまな展開を見せていますが、私もまちなかでの新たな展開を検討中です。みんなが気軽に立ち寄れる地域のコミュニティのような場所を作って、そこが子どもの居場所にもなる。そんなかたちもいいなと考えています。

### こども食堂を広めるフェスタ開催



まえばしこども食堂を運営するスリージェネレーションズが主体となり、6月1日に中央イベント広場でこども食堂フェスタを開催。

多くの子どもたちがワークショップやステージイベントを楽しみました。

現在、こども食堂は全国に2,000カ所以上あるといわれています。開設には協力してくれるスタッフの募集や活動費・場所の確保、食材の調達など、多くのハードルがあるのが現状です。しかし、多くの人たちの思いが集まってこそ成り立つこの取り組み。利用する子どもたちはいきいき活動する大人を見て、多くのことを学び、成長していきます。地域の活力が集まる場所、こども食堂。一度活動の場をのぞいてみませんか。

# 子どもの居場所から 地域全体を笑顔にする場所へ



地域の子どもやその親などを対象に、無償または低価格で食事の提供などをするこども食堂。当初は貧困家庭の子どもを対象にしたものというイメージが強かったこども食堂ですが、現在は子どもだけのものではなく、また、食事を提供するだけではない地域の新しいコミュニティの場としてさまざまな展開を見せています。

活動の形態はさまざまですが、多くのこども食堂は寄付やボランティアの力で支えられています。また、食材は地域の企業や農家、食品ロスを減らす取り組みを行う非営利団体などからの支援で確保。まだ食べられるにも関わらず捨てられようとしている食材を活用することは、食品ロスの削減になるとともに、子どもたちの食への意識を高めることにもつながっています。

子どもたちの居場所として、食育の場として、今こども食堂の活動は広がっています。

国土政発信課  
027・898・5847